

太政官
年七月ヨリ翌六月迄ヲ
一期トシ十二月限大藏
省へ可差出尤本年ノ分
ハ四月ヨリ六月限りノ
勘定帳同年十二月迄ニ
可差出事

明治八年二月四日太政大臣三條實美

開拓使

其使金穀出納順序并出納勘定帳離形
共別冊之通相定候條本年一月ヨリ右
ニ照準シ毎三ヶ月勘定帳取調大藏省
へ可差出最後前勘定帳へ添へ差出来
候小譯證書ノ儀ハ爾後不及差出候此
旨相達候事

但金穀出納順序第十四條ニ掲載候
収入経費概算表ノ雛形ハ追テ可
相達候條本年七月以後ノ分ヨリ
可差出事

明治八年二月十五日

太政大臣三條實美

金穀出納順序

金穀出納順序

允ッ金穀ヲ出納スルノ順序ハ須ク先ツ簿書ノ
 舛誤ヲ精覈ニシ規ニ照レテ日々ノ入出ヲ遺漏
 錯雜ナク詳記スヘシ日々ノ計算精密ナレハ月
 計歲計自ラ明瞭ニシ獨リ調査考檢ノ勞ヲ省ク
 ノミナラス矛盾差謬ノ弊ナキニ至ラン依テ其
 處務ノ順序約畧左ニ掲ク

第一條

一金穀出納ハ昨七年十月十三日達ノ通其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一周歳トシ毎三月例規

ニ照シテ精理シ初度ノ勘定帳七月ヨリ九月

分十月廿日限リ該地ヲ發遣シ順次此例ヲ逐

ニ大藏省ヘ可差出最後ノ勘定帳ハ四月ヨリ六月

分ノ各支廳勘定帳取纏メノ都合モ有之ニ付ハ

月廿日限リ該地ヲ發遣スヘシ且支廳ノ分ハ

左ノ規程ニ從ヒ本廳勘定帳ヘ編入スヘシ

七
八
ニ
ヶ月分
函館 留前 根室
東京

右本廳七八九三ヶ月分ヘ編入

九
十
三
ヶ月分
右ニ同シ

右本廳十十一十二三ヶ月分ヘ編入

十二
三
ヶ月分
右ニ同シ

右本廳一二三三ヶ月分ヘ編入

三四
五
六
四ヶ月分
右ニ同シ

右本廳四五六三ヶ月分ヘ編入

但擇太ハ七月ヨリ九月迄十月ヨリ十二月

迄毎三ヶ月ヲ併セテ本廳一二三ヶ月分ニ編

入シ一月ヨリ三月マテ四月ヨリ六月迄毎

三ヶ月ヲ四五六月分ヘ編入スヘシ最擇太

ノ外各支廳ノ分モ道路阻塞ニ寄リ成規ノ
如ク編入シカタキ事アレハ其由ヲ詳明ニ

申達ニ次ノ勘定帳ニ編入スル妨ケナシト
雖其結末ノ勘定帳ハ遺漏ナリ編入スヘ
シ

第三條

一 常額金ハ前年四月本年九月兩度ニ大藏省ヨ
リ受取以テ定限ノ費用ニ充ツ其受取ノ手續
ハ大藏省ニ規則ニ從フヘシ

第三條

一 租稅一歲ノ收入ハ科目年紀ヲ區分シタル勘
定帳ヲ添三ヶ月毎ニ其金額ヲ大藏省ニ納メ

右納額ノ内官祿家祿稅又明治三庚午年以後
ニ興ル新稅ヲ除クノ外更ニ受取常額金ニ充
セテ費用ニ充ツ
支廳ノ分ハ本廳勘定受取方
帳ハ合算スヘシ
ノ順序ハ前條ニ全シ

但賍贖金ハ六年^{一月}第十九條府縣ニ相達候
趣ニ準據シ一旦司法省ニ相納メ^{納證書}更ニ
大藏省ヨリ受取り及稅外ノ收入金ハ別冊
雛形ノ如ク勘定帳ヲ調成シ大藏省ニ其金
額ヲ納メ直ニ請取方ノ順序ヲナシ常額金
ニ併セテ充用スルハ本條ニ異ナルナシ

第四條

一 租稅其他諸收入ノ内海産等ノ物品ヲ收納スル
モノハ之ヲ賣拂ヒ其代金上納スヘキ筈ナル
ニ若シ納期ニ迫リ其物品未タ賣却セス強テ
之ヲ賣拂フハ現ニ損失ヲ生スル等ノ事故
アリテ已ムヲ得ス物品ヲ貯蓄シ尚ホ數月ヲ
待テ賣却ヲ謀ルモノハ其時ノ相場ヲ以テ代
價ヲ計出シ之ヲ本納ニ相立例規ノ如ク元受
ノ手續ヲナシ勘定帳面元受ニ相立然ル後物
價ハ高低ヲ參酌シ漸次賣却スルニ方リ現實

賣拂代價最前納受ノ代價ト差引増加スルモ
ノハ之ヲ稅外收入帳ニ編入シ不足アルキハ
勘定帳ノ拂ニ相立テス量闕米ノ書式ニ倣ヒ
改殘高ヲ掲載スヘシ
但シ其物品損益差引清算ニ至ラサルモノ
ハ渾テ未決算仕譯帳ニ編入シ漸次之レヲ
賣却シテ清算ヲ立ルニ從ヒ本條ノ手續ヲ
為スヘシ

第五條

一 開拓開業等ノ為米鹽其他ノ物品ヲ買立テ管

下人民等ハ賣却スルニ方リ物價ノ高低ニ因
リ元價ト差引損益アルモノハ其損金益金ヲ
帳簿ニ編入スルハ第四條ノ例ニ倣フヘシ

第六條

一諸經費ノ内旅費用意金或ハ外國ハ注文器械
代及ヒ諸買上用品上ニ營業等最前概算ヲ以若
干圓ヲ假渡致シ或ハ兩三度乃至四五度ニモ
内渡シ見込渡シ致シ候類ノ經費ハ其事業ノ
完結ヲ俟テ勘定帳ヘ編入候ヲハ其實既ニ支
出スル金額勘定帳面ニテハ有高ノ姿ニ相成

居且ツハ歳々費額計算ノ分界モ相立兼依テ
右ノ類ハ假令ヒ歳月ヲ跨ルモノト雖モ御用
ノ濟未濟事業ノ成未成ニ不關内渡假渡見込
渡ノ分トモ現實仕拂高ヲ以テ明細仕譯調査
出來候モノハ每三月中仕切ヲ以テ精算致シ
式ノ如ク勘定帳ヘ登記スヘシ

但シ費目代價明細仕譯調査行届難キモノ
ハ第七條ノ例ニ據ル

第七條

一各支廳ノ費用旅費其他費額ノ内允積リヲ以

テ既ニ其金額ヲ支給スルト雖凡前條ノ如ク
中仕切精算致シ難キモノハ總テ別紙未決算
内譯帳書式ノ如ク精調シ毎三月勘定帳一同
大藏省ヘ差出スヘシ

第八條

一金穀ノ出納ヲ登記スル帳簿ノ類ハ左ノ牀裁
ニ從フヲ則トス

日計簿

此簿冊ハ本假納拂ハ勿論返納交換等ニ
至ル迄毎日出納スル一切ノ金穀ハ無遺

漏員數又ハ受入拂出ノ音趣人名等ヲ式
ハ如ク詳記シ納拂金米共ニ切符ノ番號
ト同號ヲ付シ主務ノ吏員及ヒ之ヲ照査
精算スル吏員檢印ノ上課長之ニ割印シ
日毎ニ納拂ノ合計ヲ差引現在ノ有高ヲ
算定シ而シテ其記載セシ科目ヲ部分シ
テ諸受拂帳及ヒ追算簿差繼帳等ニ編入
登記シ月末ニ至リ書式ノ如ク總計各種
ノ入拂高ヲ區別シ以テ其編入スル所ノ
帳簿合計ト照合スヘシ

金銀預ケ帳

銀行ニテハ 同預リ帳

金銀請取帳

銀行ニテハ 同上納帳

此簿冊ハ官廳ヨリ銀行等へ金銀ヲ預ケ式
ハ預金ヲ取出ス時取替ノ證ニシテ元受帳
ニ冊拂出帳ニ冊ヲ製シ金銀ヲ預ル時官ノ
預ケ帳ト銀行預リ帳ト兩帳一様ノ證文ヲ
登記シ預リ人ノ證印ヲ取り長官出納主任ノ長官ヲ云フ以下同シ
之ニ割印シ預ケ金ヲ拂出ス時ハ受取帳
ト上納帳ト一様ニ記證シ前例ノ如ク長
官割印シ一帳ハ其廳ニ備置一帳ハ預リ人

へ交付ス而シテ其預ケ金ヲ取出ス時並納金
ヲ相預クル時ハ左ノ順序ニ從フヘシ
一納金ハ納人ヨリ直ニ預リ人へ相渡預リ
人ハ金質見改ノ上其買數事由及ビ納人
ノ姓名ヲ記セシ預リ切符ヲ納人へ渡スヘ
シ納人ハ此切符ヲ以廳へ上納スヘキナ
リ廳ニ於テハ式ノ如ク日計簿ニ登記シ
長官名印ノ領收證書ヲ作り日計簿ト同
一ノ番號ヲ付シ主務ノ官員檢印長官割
印ノ上納人ニ下附ス而シテ切符ハ其時々

預リ帳へ移載シ長官之ニ割印シテ預ケ
方ノ順序ヲナスヘシ

一預ケ金ヲ取出ス時ハ其金員ト費用ノ要旨
ト請取人ノ姓名トヲ載記セシ切符ヲ作
リ日計簿ト同一ノ番號ヲ付シ主務ノ吏
員之ニ檢印シ長官割印ノ上受取人ニ交
付ス受取人ハ此切符ヲ以テ預ケ人ヨリ
現金ヲ受取ヘキナリ右ノ切符ハ月末ニ
至リ集計シテ預リ人ヨリ出サシメ日計
簿ト照査シ切符ハ消抹シ而シテ預ケ帳へ

其月出金總計若干預金高若干ト通算登
記シ其金員ハ長官割印シ此差引殘金高
ヲ以テ翌月預リノ元ニ立長官及ヒ主任
之ニ檢印スヘシ

一凡ソ官金ヲ銀行等ニ預クルニハ例規ニ
照シ相當ノ價アル不動産ヲ書入クル證
券又ハ公債證書ヲ領收シ銀行ニ於テハ
其預ル處ノ金額ヲ保持シ他ノ融通等ニ
使用ナスマシキハ勿論ノコナレハ異日
謬違ナキ様精密注意スヘシ

但時々銀行ニ至リ預ケ高ノ現金ヲ點檢スヘシ

一米ハ官庫ニ收メ長官緘印シ出納スル所ハ主任ノ吏員ヲメ開閉セシムヘシ

金穀受拂帳

日計簿金穀納拂ノ内本假ハ勿論重複混淆等無之タノ一々點檢考査ノ上科目ニ隨テ部分登記シ而メ后精密算勘シテ元拂殘ノ合計差謬ナキヲ要シ以テ勘定帳編成ノ根據トスヘシ

貸渡金穀受拂帳

前例ニ倣ヒ遺漏錯雜ナキ様一々精査ノ上貸出返納ノ名義ヲ區分登記シ精算シテ貸渡金受拂勘定帳編成ノ根據トスヘシ

追算簿

凡ソ日計簿ニ掲クル入拂ノ内決算ニ至ラサルモノハ本入拂ト錯綜セサル爲メ詳悉部分シテ如式此帳簿ニ明瞭登記シ而メ假拂ノ廣決算ニ至ルキハ最前ノ假

拂高ヲ悉ク一旦返納シ式ノ如ク朱書シ
主務ノ吏負及ヒ課長之ニ檢印シ其決算
高ヲ日計簿拂ニ相立若シ半ハ決算半ハ
未決算ノ節ハ前例ノ如ク返納シテ假拂
ノ廣一旦取消シ而シテ決算濟ノ分ハ日
計簿本拂未決算ノ分ハ同様假拂ニ立之
ヲ追算簿ニ詳記シ順次如此ナサシ月
末ニ至リ之ヲ調査シテ決算ノ濟未濟ヲ
辨別シテ若シ決算遲緩ナルアレハ之ヲ
督促スルヲ要ス

差繼帳

此簿冊ハ日計簿ヨリ移載セシ官員傭士
ノ月給旅費等總テ一旦本拂ニ立ル後事
故アリテ返納スルアレハ出納重複ナラ
サル爲メ各種分別シテ其金員事由等ヲ
詳細登記シ月末ニ至リ同種仕拂高ノ内
ハ差繼計算上錯雜ナキヲ要ス
諸渡米出闕差引帳

諸渡米ノ内闕減ハ勘定帳殘高ノ内ニテ
差引拂ニ相立量出ハ上納スヘキ順序ナ

レハ右ハ出關米差引計算ノ上其全石數
ヲ得此簿冊ヲ設ケ雛形ノ如ク詳記シ每
一月差引合計ヲ作り三ヶ月ニ^{勘定帳}上帳スヘ
シ^キ期月至リ再ヒ通計ヲ作り量出關減ノ
差引ヲ決算シ以テ日計簿ニ登記スヘシ
諸物品元價増減差引帳

海產物品ノ賣拂ニ至ラスシテ納期ノ相
場ヲ以金額ヲ上納スルモハ其物品ヲ
貯藏スルカ故ニ顯物ヲ賣却シ及賣却ス
差引付元價ノ増減ヲ生スルアレハ式ノ

如ク登錄シ每月每三月合計通計ヲ作
リ日計簿ニ登上スルハ出關差引帳ノ例
ニ倣フヘシ

買上諸品損益差引帳

開拓開業等ノタノ米塩其他ノ物品ヲ買
上コレヲ賣却スルニアタリ物價ノ高低
ニヨリ元價ト差引増減アルトキハ式ノ
コトリ登記シ合計通計ヲツクルハ前例
ニナラフヘシ

右ノ外計算上便利ノタメ各種ノ費用ヲ分別シテ計算簿類ヲ製スル等ハソノ廳ノ便宜ニシタカフヘシ

第九條

一 支廳ハ一ヶ所コトニアラカシメ定額ヲ立定シ各支廳距離ノ遠近ヲハカリ實地仕拂マタハ勘定帳調成ニ支障ナラサル様本廳定額金ノ内ヲ以テ支派田金シ日計簿ヨリ之ヲ追算簿ニ移載シ漸次決算スルシツノ出納簿記ノ

體裁ハスヘテ本廳ノ順序ニナラヒ勘定帳式ノコトリ整理シテ毎三月本廳ニ送致シヨヒテ本廳ノ勘定帳へ合算スルシ

第十條

一 額内外ノ經費内譯調査ノタメ明細表雛形ノコトリ一種コトニコレヲ製シ勘定帳一同大藏省ニ送致スルシ

第十一條

一 凡ソ金穀ヲ出入スル細大トナリ主務ノモノ必ス考按ヲ具シ逐一ソノ受拂フヘキ員數ト

事款下ヲ掲ケテ回議ニ付シ長官ノ檢印ヲ經ルノ後タルヘシ假令モ急遽ノ際些少ノ負數ト云フトモ長官ノ檢印ナリシテ出納スルヲ許サズ而シテ其檢印アル原書ハ宜シク分類編集シ以テ異日ノ照會ニ供スヘシ

第十二條

一 官員傭士等ノ月給旅費等ニ至ルマテ總テ支出スル所ノモノハ必ズ受領ノ證書ヲ領收シテ切符ヲ交付シ日用器具買上代等ノ類モ亦之ニ同シ

第十三條

一 懲役人等ハ專ラ授工服役ヲ以テ主トス故ニ其力役收入ヲ懲役場一切諸費用ノ元額ニ併セ支給シ其消費收入トシ差引調理シ程式ニ準據シ勘定帳ニ組入ルヘシ

第十四條

一 毎年五月ニ至リ翌全年ノ收入經費概算帳ヲ大蔵省ニ於テ編製シ正院ヘ上申スヘキ等ニ付管内一切ノ收入經費トモ翌全年ノ目的ヲ立式ノ如リ其科目ヲ區分シ詳明ニ列載セル

概算表及ヒ内譯帳ヲ作テ三月二日ヲ期トシ
本廳ヲ發シ同省ヘ送致スヘシ而シテ收入經
費ノ該額ハ實際ニ就キ之ヲ查覈精理シ最初
ノ目的高ト増減シタル數ヲ記載シタル概算
表ヲ製シ毎三箇月勘定帳ト共ニ大藏省ヘ送
致スヘシ

第十五條

一 凡ソ金穀出納ノ順序ヲ誤リ或ハ之ヲ左右ニ
シ或ハ有心故造ニ出ツル等ノ事款アリテ總
テ犯罪ニ關涉スル事項ハ細大トナリ其情實

ヲ縷述シ司法省ノ處決ニ從フヘシ

年 號 何 年
何 月 月 ヲ
マ テ 金 穀 出 納 勘 定 帳